育児休暇について

1. 取得を決めたきっかけ
   率直にすこしでも子どもの傍に居たいと思った。
   科内で複数人育児休暇を取得しており、第 1 子出産時に自然と取得しようという気持ちとなった。
   また社会的に男性の育休取得について話題になっていたことも影響していた。

2. 育児休暇中の良かったこと、大変だったこと
   こどもの成長を間近で感じることができた
   育児の楽しさ、つらさを妻と共有することができた
   妻に体調不良があったが、休暇中のタイミングということもあり、迅速に対応できた

3. 家族からどんな言葉がありましたか
   育児休暇で自宅にいることで妻が可能な範囲で休息をとることができて助かったとの声があった。
   また話し相手がいることで気分転換になっていたとの発言もあった

4. 業務の事前調整はどのようにすすめましたか
   担当患者はチームのスタッフに引き継いだ
   係の仕事等は他の職員とあらかじめ不在期間の予定を共有し、不在時は代行して実施していただいた。

5. 仕事に戻ってみてどうですか
   復帰直後は体力的な大変さや勘を取り戻すに時間を要したが、自然と職場に復帰できたと思う。
   育児休暇を経て、こどもとの時間をとれたことで、より仕事に励もうという気持ちになれたのは自分として大きな心境の変化であった。

6. あらためて育児休暇を振り返ってみると
   私は妻の体調不良の影響で第 1 子の間で 2 回取得させていただきました。
   こどもの成長を見守ったり、妻と育児に奮闘したりとその時期にしかできない経験を体験できたのは父親として非常に有益な機会であったと感じています。
   また妻の体調不良時が育児休暇中であり、すぐに私が動けたのは大きかったですし、職場の協力もあって、妻の体調が戻る間、2 回目の育児休暇を取得させていただき、感謝しています。

子どもの成長を見守る上で育児休暇が有用であることは間違いないですが、出産後の女性はいつ体調が崩れるかわからないことを今回実感しました。
その際にすぐに異常を察知して、行動できたのも育児休暇を取得し、家族の傍にいたからだと思います。
今後、育児休暇を取得する男性職員も増えてくると思うので、その際は自分がサポートに回っていけるようにしたいと思います